

# 1. プライバシーに配慮し安全・安心に資する監視カメラシステムの開発評価

## 目的

閲覧権限を持った人のみ、また捜査等で必要な映像部分（フレーム）だけ、しか閲覧できない監視カメラシステムを開発することで、監視カメラによるプライバシー侵害の問題を改善する。

## 実施内容

### ①「プライバシーに配慮した監視カメラシステム」の実証試験装置の開発

監視カメラが撮影した人物の画像から顔特徴情報を抽出し、その顔特徴情報を暗号鍵として、撮影画像をリアルタイムに暗号化し記録装置に保管する。別途用意されたある人物の顔特徴情報から、その顔特徴情報を持つ人物（正確には用意された顔特徴情報に類似した顔特徴情報を持つ人物）が保管されている映像情報の中に存在すれば、暗号を解きその映像部分が表示されるようにした監視カメラシステムを開発した。

### ②「プライバシーに配慮した監視カメラシステム」の実証試験装置による実証実験

開発した実証試験装置により実証実験を実施。捜査対象とした人物でない人物をその捜査対象者と誤る率を5%以下とした場合、捜査対象者を正しく判定しその人が写っている映像部分だけを見られる率として68%を得た。なお、実験では20代から50代の男女5名で、変装も想定し眼鏡のあり/なし、帽子のあり/なしで各人3回ずつ行った。

### ③アンケート調査

アンケートにより監視カメラによるプライバシー侵害の問題に関し、広く一般の人の意識を調査した。有効サンプル数1440名の調査で、通常の監視カメラをプライバシーの侵害と感じる人が約30%であるのに対し、開発した監視カメラシステムの方式では約18%となり、プライバシー侵害の問題をかなり改善できることが分かった。

## 成果

監視カメラで撮影された映像が、ある権限を持った人（犯人捜査を担当している人等）のみ、また保管されている映像中で捜査対象者や被害者が写っている等の部分のみしか閲覧できない監視カメラシステムを開発することで、監視カメラのプライバシー侵害に対する問題がかなり改善できる。また、このような監視カメラシステムが実現できることも実証できた。



実証試験装置



ATMコーナーに設置して実験



顔特徴が捜査対象者の顔特徴情報と一致しない場合、表示されない

変装しても顔特徴情報が類似であれば表示される